

## 日本一の AKB の学校 ー貢献する前川中へー

校長 沖田 孝雄

故 NHK アナウンサー・鈴木健二氏は、「挨拶（あいさつ）」の大切さを力説していました。

「挨拶の"挨"という字は、『開く』という意味であり、"拶"は『迫る』という意味だ。つまり挨拶というのは、『心を開いて相手に迫る』ことなのである」

あいさつは、人間関係を構築するための行為であることが分かります。親しい人に会えば、自然と「おはよう」「元気?!」などのあいさつが出てきます。それは、気心知れた仲であるからこそ、お互いが心が軽くなるあいさつを交わせるのでしょう。あいさつを毎日続けるとお互いのつながりが太くなっていくものです。あいさつは、人と人をつなぐツールであるとも言えます。

鈴木氏が言うように、相手がしてくれるからとか相手がしたからでなく、自分からする挨拶（あいさつ）が「心を開いて相手に迫る」本物の挨拶になるはずで、それができれば、多くの人から受け入れられて仲間が増えるはずで、前川中では、AKB（A あいさつ K きれい B 勉強）に生徒が主体的に取り組んでいます。「A あいさつ」については、毎朝の正門で生徒会本部があいさつ運動をしています。生徒会本部の生徒は雨の日も、暑い日も、寒い日も毎日あいさつ運動をして、より良い学校生活づくりに貢献してくれています。登校する生徒の皆さんが、正門にいる生徒会本部役員に挨拶される前に「おはようございます」と言えるようになると本物の「A あいさつ」になると期待しています。

今年度、貢献する前川中となるために地域の方々にもあいさつできる前川中生であってほしいと願っています。地域の中で生活する生徒達であって、その生徒達が学ぶ場所が前川中。あいさつで地域を明るくして地域に貢献できる前川中を目指していきたくと考えています。

その他に貢献する前川中として、資源回収等を通じて「地域もきれいにする K（きれい）」、学んで身につけたことを発揮して「地域に活力を与える B（勉強）」に取り組んでいきます。生徒達は、学校では黙々と清掃をし、常に教室をきれいに使用しています。また、授業にしっかり取り組み、毎日帰りの会で家庭学習の計画を立てて次の日の朝に勉強したものを提出して自ら学習する習慣を身につけています。それらは、よい習慣であり、素晴らしい力でもあると思います。この力を地域で発揮して、地域に貢献することは生徒達にとって貴重な経験となると考えています。人のために働くことのできる生徒達であってほしいと願っています。将来、就職したときに「人のために」という意識は、仕事をする上でやりがいの糧となります。昨今の若者は、他人と比べて自分自身の不甲斐なさや他人への強い羨望等から劣等感を抱きやすいとも言われています。しかし貢献することにおいては比べる必要はありませんし、自らの行動で人に役立つことを実感できるはずで、人のために働く意思をもち、やってみることで充実感を得られるはずで、生徒達には、貢献することで「私たちにも何か変えられる」という体験をさせたいと考えています。

創立40周年を迎えて次の10年につなぐ学校づくりをすすめるために、貢献する前川中を目指します。

### 【貢献する前川中】

A（あいさつ）：地域もあかるく K（きれい）：地域もきれいにする B（勉強）：地域に活力を